

イチゴ高設栽培におけるベッド内培養液の肥料バランスの乱れの影響

福島県農業試験場いわき支場
平成17年度試験成績概要

- 1 部門名 野菜－イチゴ－施肥法
分類コード 03-07-13000000
- 2 担当者 常盤秀夫・石郷岡典子
- 3 要 旨

同一の培養液を用いて、排液率を変えた場合のベッド内肥料成分バランスや収量への影響を検討した。また、排液率を一定にして、肥料成分バランスの乱れ程度を変えた場合の生育や収量への影響を検討した。

(1)同一の培養液を用いた場合、ベッド内培養液中の濃度は、ほとんどの成分で排液率が少ないほど濃度が低く、pHは高かった。

(2)ベッド内培養液中の肥料成分バランスは、排液率が低いほど、カルシウム比率が上昇し、カリウム、硝酸態窒素、リンの比率は減少する傾向であった。

(3)イチゴの収量は、排液率が低いほど少なかった。特に排液率0～5%区では収量が大きく低下した。

(4)排液率を50%と一定にし、培養液成分バランスの乱れ程度を変えた場合、生育および収量に培養液成分の乱れ程度による差は認められなかった。

以上より、イチゴの高設栽培においては、排液率が低いほど、培養液の濃度や培養液成分の比率の変化が大きく、それに伴い収量の低下が見られた。また、十分な給液量・排液量が確保されていれば、培養液の肥料成分バランスの乱れが、生育・収量に及ぼす影響は小さいことがわかった。

- 4 その他の資料など